



2022年
5月31日
発行

日本山岳会

「高尾の森」通信



—小下沢風景林の森づくり活動—

会員数：162名
(2022年4月末現在)

春の気持ちのよい日差しの中、
会員限定でしたが7年ぶりに植樹祭が行われました。
皆さん、苗木にどんな思いを込めて植えたのでしょうか？
5年後、10年後・・・、楽しみです。



エナガ

日本の広い地域で一年中観察することができる。
全長約14cm、綿を丸めたようなフワフワしたからだがかわいらしい。
長い尾を「ひしゃく」の柄に例えられて「エナガ」と名前がついた。
絵：横川 信由

<http://JACtakao.net>

復活の植樹祭実施報告

満面の笑顔！ 心地よい植樹

副代表 松川 征夫



いざ出発



苗木にあげる水を吸んで



まずは苗木の植え方講習



新緑もはじまりヤマザクラやスミレなどが咲きほこる4月9日（土）、好天に恵まれ植樹祭を実施した。

2015年植樹祭後ふれあいの森では植栽地もなくなり、2016年から板当地区での育樹祭にシフト。2017年、2018年と荒天のため育樹祭も中止、その後も台風被害で林道も通行不能状態、またコロナ過でなかなか計画通りに取り組むことができない辛い年が続いた。

会の発展に大きく貢献してきた「植樹」をなんとか復活する方針のもと、2022年と2023年は都有林で植樹を行うことが決まり準備を進めた。昨年9月には作業班リーダーと現地で植栽地の確認と実施までの手順などを確認し10月には間伐を機械班に依頼、11月から3月にかけては各班の協力のもと間伐材の整理や地拵え、作業道づくりと着々と準備を進めた。

今回は法人企業の皆さんも数社参加し会員と併せ80名の参加のもと実施。樹種はカツラなど8樹種120本で、初めて植樹される会員も多く作業リーダー中心にベテラン会員の指導のもと上下作業のならぬよう時間差をつけ取り組み心地よい汗を流した。

ベースでは多くの会員がキッチンに腕を振ってくれた。久しぶりに餅つきを実施、アンコ、大根おろしなど数種の餅を堪能、また野菜たっぷりの味の良い煮物料理もふるまわれ、またコナラの櫓木（ホダギ）から収穫された「シイタケ」も嬉しいお土産として出された。会員の満面の笑顔が美味しさを物語っていた。

今回80名の参加でした。このようなイベントには人を引き付ける力があることを実感できた。今後ウサギやシカが都有林にも出没してきているため、ネットやツリーシェルターなどで対策を行う予定である。また木下沢林道復旧工事も着々と進んできています。来年の春には完成することを願っています。

最後に多くの会員のご協力に感謝いたします。



	樹種	本数
A班	カツラ	15
	ヤマザクラ	15
B班	ケヤキ	15
	コナラ	15
C班	イタヤカエデ	15
	ヤマボウシ	15
D班	ミズキ	15
	機械班	イロハモミジ 15
合 計		120





念願の植樹祭に 参加できたことに感謝

酒井 理恵

私の趣味は山登りで、週に一回は山に登り森林に癒しとパワーを頂き、日々のストレス、疲れをとりに行っています。山に行けないと身体も心も病気になるようで辛くなります。山に行くために、怪我、病気にはならないように日々気をつけています。以前、山でお会いした方が「山は診療所」と言っていたのですが、本当にその通り!と思いました。

山では山頂や稜線からの景色も好きですが、森の中を歩くのが大好きな私は、いつまでも緑豊かな森を保てるお手伝いをしたくて植樹をしたいと思います。これが高尾の森づくりの会に参加することになったきっかけです。

今回念願の植樹祭だったので、定例作業の時は撮ったことがない写真をどうしても撮りたくて、自分の植えた苗などを記録に残しました。大げさかもしれませんが、子供の成長を見守る思いに近いものを感じました。成長するまでは何年かかるので、見届けるのは大変ですが、大きく元気に育って欲しい!と気持ちを込めて植樹しました。植え方も教えて頂き、根の近くに枯葉があると水分が奪われてしまうと、水が貯まりやすく土が流されないような土の盛り方など、初



酒井さん(左)



めの事ばかりで勉強になりました。また、植樹後ベースでは、キッチン担当の方々が作って下さったお餅、芋煮など、とっても美味しく何回もおかわりしてしまいました。帰り道では、山桜が咲いている山々を見ながら、このように育ってくれるのかなあ~と思いながら帰りました。

コロナで当たり前に行っていた事が出来なくなっている中、植樹祭を開催出来た2022年はとても思い出深い植樹祭になったと思います。参加出来た事に感謝致します。

高尾森づくりの会 植樹祭感想

福井 雄登



福井さん(左)



森林保全活動、自然の多様性を高める活動と聞いて真っ先に植樹を思い浮かべる人も少なくないだろう。事実自分もそうだった。本会が高尾の山林の保全活動をしていると聞き及んで、具体的な活動としては植樹を一番にイメージした。それだけにそんな植樹祭がここ7年、実施されていなかったと聞いたときはとても驚いた。この会の目玉ともいえるような活動が、どうしてここまで実施されないまま年月が経ってしまったのだろう、というわけである。

しかしこの会での活動経験を重ね、森林保全活動について色々と考えていく内に納得した。植樹祭一つするにも、事前に植栽地を選定し、作業道を開削し、間伐をし、地拵えをする...といった地道且つ膨大な準備が必要で、更に新型コロナウイルスの流行等も考慮すると、毎年そう易々と植樹を行うわけにもいかないのだ、と。

今自分が一番伝えたいことは、植樹祭が無事にできたこと自体への感謝の気持ちだ。この植樹祭を実施できたのも、緻密な作業計画の立案、間伐や地拵えなどの地道な通常作業、行政による許可、この会の人々の縁、更には当日の天候まで、ありとあらゆる奇跡が積み重なった結果だと自分は考えている。それゆえこの植樹祭を当たり前と思わず、その奇跡の重なった上に自分が参加できているのだということを意識すると、自分は何とも誇らしく、且つまた有難い気持ちになれる。

今回植えた樹木たちが無事に育ったかがわかるのは数十年である。が、はやる気持ちを抑えて、まずはこの会のこれまでの活動にこう言いたい。「本当に、ありがとうございました!」

2022年度作業計画

副代表 大森 茂



小下沢国有林の作業計画

2021年4月に小下沢国有林「ふれあいの森」協定（218～221林班の98.3ha）を東京神奈川森林管理署（以下、森林管理署と略す）と締結し新5ヶ年計画を策定、新作業班体制による森づくりを開始しました。2022年度はこれを継続します。以下、作業計画概要です。

- 1 218 ろ・と・は小班の除伐 / 間伐、倒木 / 枯損木処理
間伐対象面積は7.2h（急傾斜や岩場は対象外）
立木本数推定9100本の内、除伐 / 間伐対象約1400本（5年間で実施）
- 2 218～221林班の植栽樹木の生育調査と保育を
昨年度新設のモニタリング班で実施
- 3 ザリクボ沢兩岸エリアの植栽地（221林班）のつる切り、沢・作業道の整備
- 4 専門班による動物・植生・生態系調査や木工班による木づかい運動の継続
- 5 安全技術の研修 / 教育、刈払機及びチェーンソーによる機械作業の推進
- 6 上記活動で習得した技術を基にした、都有林 / 三宅島緑化再生プロジェクト、親子 / 学童 / 学生対象の森林教室、自治体 / 法人等の森林整備、展示会などの社会貢献活動を推進

板当国有林の計画（取り組みについて）

従来は森林管理署と個別の森林体験協定により除伐 / 間伐などの森林整備を実施してきましたが、今後は林野庁が2021年6月に定めた「協定締結による国民参加の森づくり」の推進の考えに沿って、森づくりの提案、活動を実施していく予定です。本年4月に森林管理署から板当国有林での「ふれあいの森における国民参加の森づくりの実施主体」の公募があり当会はこれに応募しました。

今後、板当国有林の「ふれあいの森」で森林整備、植栽や下草刈りなどの作業のほか、自然観察など自主的な森林づくり活動を進めていく予定です。皆さんで楽しい汗を流しましょう。



タヌキ

高尾の森に棲む 動物たちの変化



アライグマ

動物調査班
白井 聡一・山崎 勇

高尾の森に棲む動物たちについて、動物カメラを設置し調査を始めて11年が経過しました。今までも何回か会報で報告をしてきましたが、今回は在来種のタヌキ、アナグマ、シカと外来種のアライグマ、ハクビシンについて出現回数の変化を報告します。

*各種の年度別出現回数は、年度別推移のグラフ参照

2014～21年の8年間の前半(2014～17年)/後半(2018～21年)に分け、それぞれ4年間の平均出現回数を種類毎に比較してみました。

【在来種】タヌキ&アナグマ&シカ

種類	出現回数		増加率 (倍)
	前半	後半	
タヌキ	51	110	2.2
アナグマ	47	91	1.9
シカ	16	170	10.6

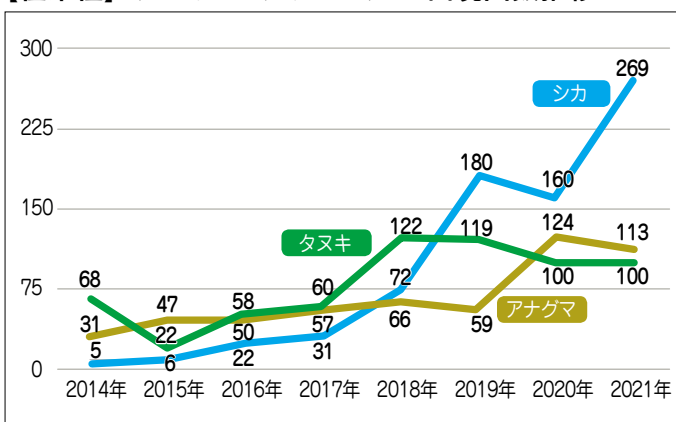
【外来種】アライグマ&ハクビシン

種類	出現回数		増加率 (倍)
	前半	後半	
アライグマ	21	29	1.4
ハクビシン	11	21	1.9

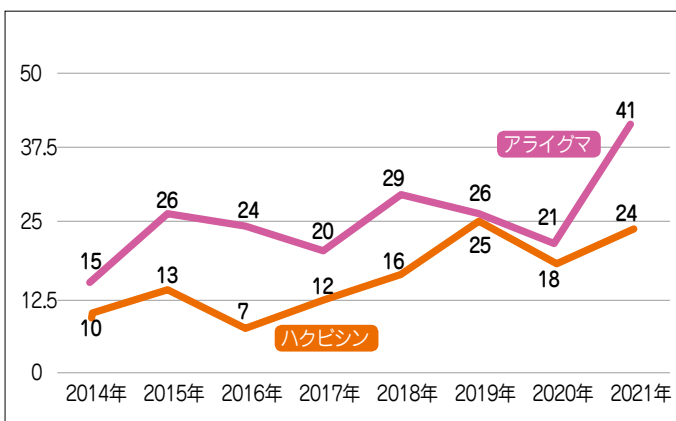
考察 1.

タヌキ、アナグマ、アライグマ、ハクビシンの4種類の出現回数についてみると、タヌキとアナグマの在来種は植栽地フィールド帯にもとから住んでいたと思われる。アライグマ、ハクビシンの外来種はその後進出してきた種だが、いずれもギャップ地再生時伐採したスギ、ヒノキ切り株等を利用して営巣地を広げたことや広葉樹の成長で餌が豊富になり繁殖したと思われる。出現回数と個体数との間には関係があるとみなしでも出現率が8年で1.5～2倍では急速な増加とは考えず、植栽木に大きな被害が認められるわけではないので、同じ山の生き物として成り行きに任せてもよいのではないか。

【在来種】タヌキ&アナグマ&シカ 出現回数推移



【外来種】アライグマ&ハクビシン出現回数推移



考察 2.

シカについては、動物カメラ設置時には存在が認められなかった種であるが、その後出現回数の急増を示すデータとともに、撮影された個体の性別も「オスのみ」→「オスとメス」→「メスと子供」→「ハーレム」と変化しきて、最近こげ沢フィールドでは完全に繁殖地の様相を呈するようになってきた。幸い植樹した苗木はその前に成長したため食害は免れ、角研ぎ程度で収まっているが、これから植樹を行うものについては防護柵などの対策を施したり、場合によっては東京都環境局による個体調整が必要となるかもしれない。

2月3月活動日記

- 東京都では2月に入り新型コロナの感染者数が1日あたり過去最高の2万人超えを記録。感染拡大防止のため、2月のイベントはほとんど中止となった。
- 3月に入り植樹祭を1か月後に控え、都有林では植栽地の整備・篠竹設置などの最終仕上げ作業が行われた。また218林班では引き続き間伐を実施した。
- 7年間続いた八王子の上柚木公園整備作業は、関係者に惜しまれながら3月をもって終了となった。



A班



B班



都有林出発前

最後の上柚木公園作業



4月活動日記

- 植樹を終えベースに戻り、キッチンの皆さんに準備いただいたたくさんの料理に皆さん舌鼓。
- 植樹祭ではこれまでの法人会員に加え、体験研修の法人の方々にもご参加いただいた。
- 都育林では三の沢植栽地補植のための整備が行われた。

さて、どれをいただこうか？



たくさんの芋煮



土産は高尾の森でとれたシイタケ デカい！



グローリーの皆さん



メタウォーターの皆さん



もくじ

復活の植樹祭実施報告	02
植樹祭に参加して	03
2022 年度作業計画	04
高尾の森に棲む動物たちの変化	05
活動日記	06
上柚木公園作業を終えて	08
ハヶ岳で好きな自然	08
高尾の森スキーツアー	09
雪の武尊山 再挑戦	09
会員近況 その他	10
事務局からのお知らせ	12



エナリスの皆さん



ささえあの皆さん

上柚木公園作業を

見留
一楨



「暑い日差しの下、急斜面に生えた背丈を越えるような雑草の塊に刈払い機を突っ込み、刈り倒す。時にはアナグマの巣穴に足を取られながら…」

上柚木公園は八王子市の南東にある市内で一番大きい公園で、多数の運動施設と森林が共存しています。2015年2月、公園の管理団体である文化ふれあい財団さんより、公園北側の次の作業を打診されました。

- ①ニリンソウも生える散策路沿いの下草や笹竹刈り
- ②雑木林の林床管理と枯損木の処理（秘かにキンランの咲く林あり）
- ③竹林の整備や土留め柵の設置
- ④北東側の大斜面周辺の草刈り

これらの作業は公園の必須管理区域外となっており、一般業者に依頼できないとのことで、当会が引き受けることとなりました。

以来、2020年度までは年6回、

2021年度は年9回、1回あたり6～8人で作業をしてきました。公園は週末や祝祭日に競技大会や行事を催すことが多く、作業はそれらを避けて平日に行いました。また、公園の近辺にある都立大沢学園や市立鏈水中学の生徒さんが、実習の一環として参加してくださったこともあり、一緒に作業を楽しみました。

ところが昨年末ごろ、永らく公園管理をしていた文化ふれあい財団さんが2022年度から他の団体に代わるため、2022年3月末をもって契約の更新は行えない旨連絡がありました。先に述べたとおり、当会の作業は必須管理項目外なので、新しい団体への引継ぎはできないとのこと。せっかく定期的な下草刈りや風通しの良い竹林の管理、そして草花の保護も見通せるようになってきた矢先、残念ですがやむをえません。

7年間にわたる皆様のご支援ご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

八ヶ岳で 好きな自然に！



相澤
篤

南北30km、東西15km程に渡る八ヶ岳は、北は原生林が生い茂り、南は赤岳に代表される雄大な山々がそびえる変化に富んだ山域です。八ヶ岳は特に春、何処からアプローチしても魅力満載の山域なので、何にフォーカスすべきか迷うばかりです。

今年4月、「日本野鳥の会」元会長で俳優の柳生博さんが永眠したとの一報がありました。映像でしか知りませんが、野鳥好きの私は、楽しそうに小鳥の話をする姿に好感を持っていました。彼は、山梨県八ヶ岳南麓（北杜市）に居を構え、荒れ果てた人工林を元の雑木林に戻し、そこに「八ヶ岳倶楽部」を設置しました。当時、「自然環境の未来を確かなものにするために、次世代を担う私たちが何をするべきか」などに共鳴した人々がそこに数多く訪れたそうです。その思いは、「高尾の森づくりの会」の活動と方向性が同じといえます。

さて、私が八ヶ岳で出会う楽しみは春夏秋冬書き切れない程ありますが、その一つを挙げれば、5月中旬～6月中旬に咲くピンクの美しい花、「クリンソウ（九輪草）」です。清里にある人気の群落に限らず、北八ヶ岳から南八ヶ岳まで、樹林に湿地帯が点在し、多くの大群落を楽しんでいます。また、もう一つは、「ホシガラス（星鳥）」との出会いです。カラス科の留鳥で、富士山をはじめ八ヶ岳から望む周囲の亜高山や高山の針葉樹林帯に多く生息しています。鋭い嘴で針葉樹の種子や昆虫などを食べていますが、貯食の習性があるため広範囲に移動し、余った種子を貯蔵するので、森林の再生に一役かっているようです。ホシガラスと我々も仲良くなれそうですね。首都圏からアクセスし易い八ヶ岳です。春夏秋冬、皆さんも足を運んでみませんか？



ホシガラス



クリンソウ

早川
憲也



高尾の森 スキーツアー



山頂の小野さん

コロナ禍により2020年3月を最後に途絶えていたスキーツアーを今期は復活しようと言う話が持ち上がり始めた頃第6波が押し寄せ、それもかなわぬ夢とあきらめた矢先、B班の小野さんから苗場スキーツアーのお誘いがありました。會田さんのご希望による苗場スキー場は、自分にとってもとても懐かしいスキー場です。

当初平日3日間のスキー計画でしたが、私は会社勤めのため平日の連休は難しく、調整の結果1月30(日)～31(月)の一泊二日の短縮ツアーになりました。

蔓延防止法が発令してしまったこと等もあり参加者は小野さん、會田さん、早川の

3人に減ってしまいましたが現地集合を約束し車2台でそれぞれ出発です。

私は朝4時に埼玉の自宅から出発し、国道17号→三国峠ルートで苗場に入りました。

三十数年振りの苗場は例年に比べ雪が多く、粉雪が舞い散る中、期待に胸を膨らませながら8時のリフト運転と同時に滑り出し、最初は下の方で足慣らしをして、ゴンドラが動き出すと頂上の筍山へ。

頂上は吹雪状態で気温もマイナス10度以下、膝より深い深雪を恐る恐る滑り降りしました。

下へ降りて休憩していると、小野さんから到着の連絡があり無事合流、午後は3人揃ってマイペースで足慣らし。

宿泊したホテルの客は我々3人のみの貸し切り状態!!(延防止法の影響か?スキー離れの影響か?)翌日は天気もやや回復し時折青空も見え気持ちを新たにいざ出陣、會田さんはベースキャンプを守ると言うので、小野さん早川で再度頂上アタック。丁度その瞬間だけ青空が顔を出し二人で深雪を満喫することが出来ました。



筍山を望む



今年2月、急きょ大森さんと山野さんに声をかけ、天気狙いで群馬県の武尊山に行ってきました。冬の武尊山は川場スキー場のリフトを利用して比較的楽に登ることができるのですが、3年前の2月に悪天候でやむなく途中下山し、その再挑戦です。

コロナ自粛が長く続き久しぶりの山行、雪山はいつ以来だろうか?雪山用の道具どこいった?服は何を着ていったらいいの?コロナプランクはあまりにも長すぎます。

まん延防止中とはいえ天気の良い週末、関越道は渋滞しおまけにスキー場也大混雑!川場スキー場では、登山者は指定用紙での登山届の提出とココヘリ(遭難時の捜索のための発信機)の携帯が義務付けられていて、この手続きが終わらないとリフト券を販売してもらえません。

そんなことでだいぶ遅いスタートとなってしまいましたが、外に出ると快晴のほぼ無風で天気は最高!3年前は視界が悪く景色は何も見えず、今回見

雪の武尊山 再挑戦



大島
徹

る景色はどれも初めてです。標高を上げていくとドンドン景色が良くなって。やはり山は晴れてた方がいいですね。

歩き始めてから2時間15分ほどでようやく武尊山山頂に到着です。山頂からの景色は360度の大パノラマ!西側には真っ白な谷川連峰がよお〜く見えていました。それと山頂には登山者がたくさん。おかげで山頂の記念撮影は順番待ち。天気が安定していればほとんど危険もなくこの景色を味わえるのだから、ここは人気があるわけです。出だしてチョット躓きましたが、久しぶりの雪山山行、天気に恵まれ最高の景色を味わうことができました。

比較的楽に登れる武尊山ですが、3年前は私たちより前に入山した人が下山しないと翌朝沼田警察署から電話がありました。冬の雪山、無理は禁物です。



前を行く大森さん、山野さん



剣ヶ峰山(西武尊)



2020年10月上旬の栗駒山

休日は栗駒山へ

淡路 文恵



秋の須川高原温泉源泉付近



栗駒山山頂にて

みなさま、ご無沙汰しております。2015年1月の新年会の席で「気仙沼で働くことにしました」と電撃報告をして、盛大に送り出していただいてから早や7年が過ぎました。その間に気仙沼も復興が進み、街並みもだいぶ変わりました。ご存知のように、ここ数年で大島大橋と三陸自動車道の気仙沼湾横断橋が開通、昨年のNHK朝ドラの舞台になるなど注目されてきました。

こちらでは山並みを見ながら海の方へ車通勤する毎日ですが、やっぱり休日はわざわざ高い山方面に向かってしまうことが多いです。私が住む一関市の西の端には、花の百名山、「神の絨毯」とも称される全山紅葉で有名な栗駒山(1626m)があるのですから、じっとしてはいられません。

岩手県側の須川登山口からは山頂まで行かなくても、湿原や登山道沿いの花々、火山活動による地形を1～2時間程度のお気軽ハイキングで十分堪能できます。残雪の春から晩秋の落葉までの四季折々の姿、その日の天候はもちろん、たった数日でも彩る花々の咲き具合が変化するので、毎回ワクワクします。そして、登山口では秘湯・須川高原温泉の硫黄臭が漂う源泉が勢いよく流れており、この匂いとお湯はすっかりくせになってしまいました。雪に閉ざされる半年間は、時にはふもとで雪遊びや雪見風呂を楽しみながら、須川の春の訪れを待っています。

たびたび行くうちに須川に集う知り合いも増えてきました。高尾と違ってノンアルで一杯ですが、ここで過ごす時間もまた気分転換になっています。高尾のみなさんに山作業や山歩き等「山での楽しさ」を教えていただいたおかげで、こちらでも「山にいる休日」を満喫しております。



活動が高じて本職に……

山口 竜朗

機械作業班の山口です。

現在は年一回程度の参加とほとんど幽霊会員と化している状況です。と言いますのも、四年前に東京を離れ、長野に移住したことで、おいそれとは参加出来なくなったからです。



何を隠そう、現在、私は長野で山仕事を生業にして暮らしています。齢五十を超えてからこの新しい世界へ飛び込めたのは、この会での経験が少なからず影響したのは間違えないと思っています。ちなみに、何故、長野か？というのは、単に大好きな北アルプスの近くでと思ったからです。異業種からこの仕事への転身は慣れるまでは結構厳しいと一般的に言われますが、趣味の登山や体力トレーニングのお陰もあってか、一年目から意外と苦も無く仕事をこなせるようになり、今年であっという間に四年の月日が経ちました。よく好きなことを仕事にするのは大変だとも言われますが、私にはまったく当てはまらないようで、技術の探求に勤しむ充実した日々を送れています。こういう言い方は差し障りがあるかも知れませんが、世間のコロナ禍とは無縁でストレスフリーの毎日です。

五年目に入る5月からは勤務先を変え、居を移し、これまで携わることはなかった架線集材の作業に新しくチャレンジすることになります。またほとんどペーパードライバーだった高性能林業機械にも関わる頻度も上がりそうで、とてもワクワクしています。とは言え、重大事故に繋がりがやうい仕事であるのは言うまでもありませんので、一層気を引き締めて、プロとしてスキルアップをはかっていくつもりです。

植樹祭にちなんで
会員の功刀正仁さんから
詩の紹介がありました。

詩の紹介

「木を植える」 谷川俊太郎

「いのちの木を植える」

岡田卓也／谷川俊太郎 著より

木を植える

それはつぐなうこと

わたしたちが根こそぎにしたものを

木を植える

それは夢見ること

子どもたちのすこやかな明日を

木を植える

それは祈ること

いのちに宿る太古からの精霊に

木を植える

それは歌うこと

花と実りをもたらず風とともに

木を植える

それは耳をすますこと

よみがえる自然の無言の教えに

木を植える

それは智恵それは力

生きとし生けるものをむすぶ



◆冬の大菩薩嶺

廣瀬 英彰

あれは10年以上前、山歩きを始めた頃、冬の大菩薩嶺に行って来ました。

終点の裂石バス停で降りたのは自分含め3人だけでした。歩き始めると、麓は晴れているのに山を見上げると真っ黒な雲が覆いかぶさっていた。そこでよせばいいのに・・・。

半ば過ぎた頃、雲の中に入り風が吹き雪が降ってきた。天候は段々とひどくなり、雪が顔に当たり痛くて前が見えづらくなった。山頂から尾根沿いは凄い吹雪で、倒れると雪に埋もれて起き上がれず、幾度か途中で一緒になった人に助けてもらった。

なんとか避難小屋にたどり着いた。その人はジャリジャリに凍った酒を美味そうに飲んでいた。気温マイナス10℃とても人間とは思えない・・・。自分は寒さで手足が動かず、体中ガチガチ震えていた。よろけながら下山して温泉で冷たくなった身体を温めた。

でもなかなか治らず医者に行き凍傷になったら温めて揉んではダメだと言われ、耳が完治までに一ヶ月以上かかった。

その時知り合った人とは今でも友達と一緒に山歩きを楽しんでいます。

◆池谷キワ子さんが「第31回みどりの文化賞」を受賞！

高尾の森づくりの会の設立当初から会員の池谷キワ子さんが市民・女性の視点で森林づくりを広めたとして、5月7日に「第31回みどりの文化賞」を受賞されました。この賞は緑や森林に関して顕著な功績があった方を顕彰するものです。会では2004年から10年間、五日市にある池谷さんの森林で枝打ちをさせていただきました。今でも市民参加による森林整備の重要性を訴え続けて活動されています。

◆コゲ沢ベース小屋 —全会員の拠り所—

佐々木 正雄

この杉玉は何のシンボル？



久しくベースに来られなかった方々、小屋のデッキの上にさがっている“杉玉”に気付かれませんか。この作品は今年の厳寒期に、ご自宅の庭からお酒が湧き出るとの噂のある某“酒豪”の作品です。でも、さっそくある会員から「ベース小屋が酒蔵になってしまうのでは・・・」と危惧する声が届きましたが・・・。

コゲ沢ベース小屋に関しては、これまで森づくりの会が20年もの長期にわたり広く活動が続けてこれたのは、拠点となるこのベース小屋の存在によるところが大きいと確信しています。これからも高尾の会がさらに一層の活動を継続していけるよう、“ものづくり・小屋管理班”が中心となって小屋の維持管理に努めていきます。

幹事会報告

(詳細はホームページ会員専用ページを参照ください)

◆ 3 月

- 議 案 1. 3月定例作業について
協議事項 1. 植樹祭準備について
2. 総会準備について
3. 新年度の新規事業と予算

◆ 4 月

- 議 案 1. 4月定例作業について
協議事項 1. 2022年度予算について
2. 役員改選について
その他 座談会開催

◆ 5 月

- 議 案 1. 定時総会開催について
2. 2021年度事業報告及び会計報告
3. 幹事及び監査役の選任案
4. 規約の一部改訂(総会議案)

活動記録

2/26	チェーンソー作業実践講習（中止）
2/27	都有林プロジェクト（10名）
3/12	定例作業（会員55名、法人1名、体験研修11名）
3/16	上柚木公園整備【最終回】（9名）
3/27	都有林プロジェクト（9名）
3/27~4/3	599ミュージアム展示会 （来場者1404名、会員延べ55名）
4/9	定例作業【植樹祭】 （会員64名、法人9名、体験研修7名）
4/17	京王親子森林体験スクール【1回目】 （親子32名、京王4名、会員19名）
4/21	滋慶学園 出前授業（2名）
4/24	都有林プロジェクト（10名）

活動実績と予定

5/14	定例作業（雨天のため5/21に延期）
5/15	滋慶学園 森林体験教室 みどりの感謝祭
5/22	都有林プロジェクト
5/22	京王親子森林スクール（2回目）
6/5	八王子市環境フェスティバル
6/11	定例作業
6/12	京王親子森林スクール（3回目）
6/18	2022年総会
6/24~26	三宅島プロジェクト
6/26	都有林プロジェクト
7/9	定例作業
7/16	刈払機実践講習
7/24	都有林プロジェクト

お知らせ

東京都産業労働局森林事務所より
木下沢林道工事の連絡がありました。

要 請 ● 平日は車両と人も通行禁止です

通行止期間 ● 2022年年3月22日から

2022 年年8月30日まで

車 両 ● 期間中は全面通行止め

歩行者 ● 平日は通行止め。工事を行う土曜日も通行止め

区 間 ● 梅林前～第一ゲートまで

ご協力よろしくお願いします。



*寄付金

昨年度末に京王電鉄様および京王百貨店様より多額のご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。

会員動向

退会：お疲れ様でした

青嶋康文さん、岩田正嗣さん、十河三郎さん、高橋賢次さん、山田英二さん

木下沢梅林

今年の見ごろは3月後半でした。



3月20日 撮影

編集後記



3年ぶりに行動規制のないゴールデンウィーク（GW）、あちこちの観光地でだいぶ人出が増えたようです。私も3年ぶりの春山で久しぶりに北アルプスに行ってきました。今年はGW直前に大雨があり、標高の低いところはだいぶ雪が融けてしまいましたが、天気にも恵まれ北アルプスの雄大な景色を見ることができました。皆さんはGWをどのように楽しんだでしょうか？（大島徹）

